

# 公募等実施事項報告書（資金分配団体）

**事業名:** 生活困窮世帯への食料支援強化事業  
**資金分配団体:** 一般社団法人全国フードバンク推進協議会  
**実行団体数:** 7団体  
**実施時期:** 2021年6月～2022年2月  
**事業対象地域:** 北海道、新潟県、愛知県、滋賀県、京都府、大阪府、福岡県  
**事業対象者:** 失業者、大学生、ひとり親世帯等の生活困窮世帯

Version 1.0

日付: 2021年6月21日

## I. 公募～選定の結果

単位: 件

選定予定件数-計画	申請事業数-実数	申請団体数-実数	選定事業数-実数	選定団体数-実数
7	20	20	7	7

## II. 公募プロセス/実行団体の募集

募集の告知期間 ※告知開始～募集受付開始 (単位: 日)	募集の受付期間 (単位: 日)	募集の告知媒体の種類							
0	23	<input checked="" type="checkbox"/>	HP	<input checked="" type="checkbox"/>	SNS	<input type="checkbox"/>	チラシ	<input checked="" type="checkbox"/>	関連組織を通じた広報
		<input checked="" type="checkbox"/>	プレスリリース	<input type="checkbox"/>	その他	具体的な方法 ( )			
<b>実行団体の募集で工夫したこと、よかったこと</b> ・公募情報については、当会加盟団体に限らず、全国のフードバンク団体へメールで一斉送信を行った ・またフードバンク団体だけでなく、全国の子ども食堂や学習支援団体、その他支援団体がリストに入っている、メーリングリストにおいても公募情報の発信を行った ・結果として当会のHP、Facebook等を見ていなかった団体にも広く認識してもらうことができ、公募説明会にも多くの団体に参加していただくことができた。									
<b>実行団体の募集の課題</b> ・コロナ緊急支援のため、できるだけ早く実行団体への資金提供を実施したかったため、当会の資金分配団体内定以降、時間的に余裕がなかった。 ・告知期間を設けてから募集を開始するなど、もう少し公募期間全体に時間的な余裕があれば、申請団体も事業内容の検討や必要書類の作成にもっと時間をとれていたと思う。									
<b>公募に申請した団体の情報を、募集終了時に Web サイト上で公表しましたか。対応状況の詳細と合わせて記載ください。</b>									
はい	<a href="https://www.fb-kyougikai.net/kyuminvokiniosej">https://www.fb-kyougikai.net/kyuminvokiniosej</a>								

## III. 公募プロセス/申請団体の審査

単位: 人

審査委員の人数 (合計)	内訳:外部委員	内訳:内部委員
4	3	1

<b>審査の過程で第三者の意見聴取等、専門的な意見をどのように取り入れましたか。</b> 審査員は公益財団法人の理事長や理事、大学教授等、税理士などで構成されており、それぞれの審査委員の専門とする分野から多角的かつ公平な審査を実施した。また、事業計画や資金計画を精査するとともに、事業のKPIである目標支援件数の達成にむけての伴走支援等の必要性も明確になった。
<b>審査を行う者の利益相反の防止措置はどのように行いましたか。</b> 審査の依頼にあたり、申請団体との関係性や、団体役員との個人的なつながりを事前に確認し、該当しないことを明確にした。
<b>申請団体のコンプライアンス/ガバナンス体制の確認をどのように行いましたか。</b> 規定類の作成状況、及びHPでの開示状況を確認し、単独の規定として存在しない場合は他の規定に含まれていないか確認した。今後作成やHPでの開示が必要な規定に関しては、貴機構の「緊急支援助成 実行団体における規定の整備について」に基づき整備するよう内定通知時に連絡し、今後は順次確認する。
<b>申請団体との面談(必要に応じて現地調査)はどのように実施しましたか。</b> 電話とメールにて確認を行った。

<b>申請団体の審査で工夫したこと、よかったこと</b>	
Zoomでの公募説明会を行い、申請にあたって不備がないように詳細な説明を行った。また、予め審査委員から質問が出そうな部分については、申請団体と個別に電話で事業計画、資金計画の詳細について確認した。審査委員が審査を行うにあたり、より審査が行いやすいように全申請団体の各数値（支援件数、取り扱い重量、連携している公的機関、他団体や企業の数など）の現在の値、目標値などをリストにして審査を行った。	
<b>申請団体の審査で感じた課題</b>	
各申請団体もコロナ禍で忙しく書類を準備する時間がなくほぼ全申請団体が締切間際に申請し、当会としても資金分配団体として初めてということもあり、提出された申請書類の不備を各団体と伴走して整備し審査に挙げるまでの処理がかなり煩雑となった。また、申請団体の申請重複等の確認にも時間を要し、審査会を開催後審査上位団体の採択の決定に至るまでに時間を要した。申請後に各団体の書類を整備していく時間を十分にとり、申請重複確認のための期間をもっと有効に運営できるように日程を設定する必要があると感じた。また、同一の事業テーマで同時期に複数の資金分配団体に申請した団体は申請の資格要件を満たしていない旨公募要項に記載しているが、採択予定団体のうち1団体が該当していた。結果的には不採択になったが、当会及び該当団体共に準備から審査後の話し合いまでかなりの時間を要したので、事前に公募説明会等で注意点として説明することで理解を深めていただくなどの工夫が必要であったと感じた。	

#### IV. 公募の設計/申請団体数・実行団体の事業内容

<b>(申請団体数)</b>	
実行団体選定予定件数に対して申請団体数は想定通りでしたか。その要因と合わせてご記入ください。	
想定通り	採択率は3割程度を想定しており、採択団体数が7団体なので23団体程度の申請を目標としていた。全国のフードバンクだけでなく、子ども食堂や学習支援団体、その他支援団体がリストに入っている、メーリングリストにおいても公募情報の発信を行ったことで、想定していた申請団体数に近い数の申請をしていただくことができた。
<b>(申請団体の事業内容)</b>	
設定した社会課題の解決に対して、選定した実行団体の事業内容（目標、対象者、地域、活動、金額、規模等）は想定通りでしたか。その要因と合わせてご記入ください。	
想定と異なっていた	審査結果が上位で採択された団体については事業内容は想定通りであったが、コロナ禍において通常より忙しい団体が多く、時間的に余裕がなかったことも要因として考えられるが、一部の申請は助成目的に沿っていない事業内容も見受けられた。

#### V. 選定結果の通知及び公開の状況

<b>(選定結果の通知)</b>	
実行団体に選定しなかった申請団体に対し、その理由と改善すべき点を示しましたか。	
はい	
<b>(選定結果の公開)</b>	
選定結果について、webサイトで広く一般に公開しましたか。	
いいえ	採択された全ての実行団体との資金提供契約が完了してから、6月中にはHPで公開する予定
<b>(規定類の公開)</b>	
ガバナンス・コンプライアンス体制に関する規程類を、webサイトで広く一般に公開しましたか。	
はい	<a href="https://www.fb-kyougikai.net/kitei">https://www.fb-kyougikai.net/kitei</a>
<b>(人件費水準の公開)</b>	
経費に人件費が含まれる場合、当該人件費の水準をwebサイトで広く一般に公開しましたか。	
はい	<a href="https://159c6093-2e9f-4fdf-96d6-8952e15460d1_filesusr.com/ugd/2a94ab_277ec8824d0a4c3e95df2232b48eccd7.pdf">https://159c6093-2e9f-4fdf-96d6-8952e15460d1_filesusr.com/ugd/2a94ab_277ec8824d0a4c3e95df2232b48eccd7.pdf</a>

#### VI. 公募の過程に伴う事業再検討結果（事前評価）

##### 課題の分析（ニーズの分析）

<b>課題の妥当性：助成申請時に想定していた課題の分析に対し、変更が発生した部分</b>	
変化なし	
<b>事業対象の妥当性：助成申請時に想定していた課題の分析に対し、変更が発生した部分</b>	
変化なし	

事業設計の分析（セオリーの分析）

事業設定の妥当性：助成申請時に想定していた事業設定に対し、変更が発生した部分
変化なし

見直し後の事業目標 及び アウトプット指標（実施・到達状況の目安とする指標）/把握方法/目標値/達成時期

今回の事業実行を通じた目標	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態
1実行団体あたり、生活困窮世帯に年間延べ1200件の食料支援を行う。	・福祉機関・団体との連携関係構築件数 ・食料支援を実施した延べ世帯数 ・食料支援に使用した食品の重量	福祉機関・団体との連携件数をカウント 食料支援を実施した延べ世帯数のカウント 食料支援に使用した食品の重量の計測	1実行団体あたり、 ・5つの福祉機関・団体との連携関係構築 ・延べ食料支援実施世帯数、1200世帯 ・約12トンの食品を困窮世帯に提供

見直し後の事業実施後（1年後）以降に目標とする状態 及び その目安とする指標（※指標については設定可能であれば、構いません）

今回の事業実行を通じた目標	目標値/目標状態
実行団体が、行政・福祉機関・他団体と連携関係を構築し生活困窮世帯の早期の把握、早期の食料支援（年間1000世帯以上）の実施が可能な体制となる。 食料を複数回に渡って届けることで、継続的に貧困家庭をフォローし、見守りを行う。 行政・福祉機関・他団体と連携関係を構築することにより、困窮世帯に食料支援を行うだけでなく、様々な公的支援につなぐことができる状態。	

VII. 広報実績（公募関連以外）

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	有	・山梨日日新聞（2021年4月15日）掲載
広報制作物等	無	
報告書等	無	

VIII. ガバナンス・コンプライアンスの確認

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	
3. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
5. コンプライアンス委員会は定期的開催されていますか。	はい	開催時期がまだ来ていないため、未実施であるが、2021年12月に開催予定
6. 実行団体に規程類の整備について説明をしましたか。	はい	

IX. その他

自由記述（※本項目は外部非公開となります）
コロナ禍でフードバンク等に食料支援の依頼は増える一方であり、ボランティアスタッフの参加数の減少をカバーすべく安定したスタッフや寄贈された食品の管理を行う場所の確保、また、在庫数や賞味期限の管理を行うツールは必須となっている。本助成事業はそのような基盤強化を実施して迅速且つ、より多くの生活困窮世帯を支援するための緊急的な助成事業として公募を行った。審査員による審査会で、最終的には審査委員会における評価が下位のため採択にはならなかったが、助成を受けなくとも自団体が大規模な食料支援を実施することができるだけの資本力がある団体からも、複数の申請があったことに対して若干違和感を感じた。